

## 泣き寝入りなんかできない 近畿地協大会で非正規の仲間の発言相次ぐ



くなってきた」「第二組合・経営者を巻き込んだ早帰り運動に取り組んだ」「入行時に知った組合の大切さを伝承していきたい」などの実態や思いが語られました。

また、初参加者からは金融ユニオンの3人が、非正規労働者に対する雇用破壊・差別的な処遇・パワハラ被害など、それぞれ自分が体験して闘っている報告が出され、参加者に感動を与えました。

最後に阿部副議長が閉会のあいさつとガンバロー三唱を行い閉会しました。

今回の大会は、地元の滋賀銀行従組や金融ユニオン

10月27日(土)、近畿地協第7回定期大会が滋賀県大津市で開催され、代議員・役員など42人(委任状5含む)が参加しました。

岡野議長は「今ある権利は最初から与えられたものではなく、たたかいの中で勝ち取ってきたもの。ひとつひとつの問題の改善は、私たち現役世代のためだけではなく、未来の世代につないでいくという大切な運動であり、そのために、組合員の誰もが、参加できる、参加したくなる行事や会議の取組が求められている。本大会を契機に活動を振り返り、出来たこと、進みつつあることなどを整理して、具体的な取組を共に進めていきたい」と挨拶し、金融労連本部・地元の滋賀県労連・滋賀県商連・政党代表の来賓の皆さんから、情勢をふまえた激励の挨拶を受けました。

討論では、「新人事制度導入を条件とした2011年定昇実施を撤回させた」「新入職員全員を組合に迎え入れた」「臨給復卒への仲間の切実な思いを経営者にぶつけ特別一時金をかちとった」「携帯メールを通じて連絡体制を確立して組合会議への参加者を増やしたり、機関紙の発行などを通じて少しずつ組合らし

滋賀分会から、夜の交流会を含めて多くの仲間が参加し、例年以上に活気あふれる大会となりました。

大会で選出された新四役は次のとおり(敬称略)

議長	岡野 展子(池田泉州銀行従組)
副議長	阿部 正巳(京都北都信金従組)
副議長	浦野 弘(金融ユニオン・大阪)
副議長	富士野三男(金融ユニオン・直属)
副議長	車谷 薫(滋賀銀行従組)
事務局長	福井 悦雄(京都北都信金従組)
事務局次長	伊藤 宗孝(金融ユニオン・直属)

※ 真ん中の写真は選出された新四役の皆さん

# 組合らしくなくなってきたゾ (きのくに信金分会大会)

10月20日、和歌山県有田郡で金融ユニオン近畿支部きのくに信金分会の第6回定期大会が開催され、組合員13人が参加しました。

辻分会長は、「この1年間、連絡体制も確立し、金融労連機関紙コンクールでも努力賞を獲得するなど、少しずつ組合らしくなってきた。引き続き団結を強めて成果をかちとっていきましょう」とあいさつ。

金融労連本部から参加した田畑書記長は「セレモニー的な大きな組合の大会とは違い、こじんまりした本大会では、是非皆さんの身近な問題を出し合って解決に向けて取り組んでほしい」と連帯のあいさつを行いました。大会では「振替休日の幽霊出勤が店舗評価の減点項目になっているため



## 近畿地協大会にメッセージを いただいた労組・諸団体

- 大阪自治労連 ●大阪医  
労連 ●大商連 ●京都総  
評 ●京商連 ●静岡中央  
銀行従組 ●仙台銀行労組  
●第三銀行従組 ●金融労  
連中国四国地協 ●国労大  
阪地本 ●大阪国公 ●さ  
わやか信金従組 ●自交総  
連大阪地連 ●生協労連大  
阪府連 ●全印総連大阪地  
連 ●全大阪消団連 ●大  
阪労連共済会 ●福保労大  
阪地本 ●JMIU大阪地  
本 ●JMIU大阪地本ダ  
イキン工業支部 ●全国一  
般大阪府本 ●大正銀行従  
組 ●通信労組大阪支部  
●富山信金職組 ●奈良労  
連 ●南日本銀行従組 ●  
りゅうぎんBS労組
- 以上 27通



虚偽報告を行なっている疑いがある」  
「時差出勤が店舗表彰の加算項目のため半分ほどの店舗にまで広がっている」と店舗表彰の問題点などが出されました。全ての議案が全員一致で採択され新役員を選出しました。  
新三役は次のとおりです

分会長	辻 昇三
副分会長	川口 和洋
副分会長	太田 典男
書記長	森 廉始

## 10/23 龍谷大学リクルートガイダンス

10月23日、就職活動前に各業態の実態を知ってもらおうと同大学の学生を対象に、龍谷大学教職員組合と伏見地区労・伏見ふれあいユニオンの共催で、労働組合の代表が就職ガイダンスを行ない、学生を中心に60人が参加しました。



**全国AD研修会場前で金融ユニオン加入を訴え (三井住友信託銀行)**  
三井住友信託銀行では、西日本の営業店のAD(資産運用アドバイザー)約100人を2グループに分けて大阪に集め、10月25~26日の2日間、研修を行いました。金融ユニオン近畿支部では、連日にわたり研修会場前で、「金融ユニオンに入って、要求を実現しよう」と、のべ8人が参加して、金融労連リーフと独自ビラをセットにして279枚配布しました。(写真・上)

金融業界として参加要請を受けた金融労連からは、金融ユニオン浦野委員長と金融労連本部田畑書記長が出席しました。最初にミニ講演として「良い会社と悪い会社、求人票の見分け方」とのタイトルで、社会保険労務士の笹尾氏が、求人票を見る際に、正社員か否か、残業が多い職場かどうかなどを見極めるポイントを解説しました。  
第7回目を迎えたこの企画ですが、今年は特に女子学生の参加が多く、マスクミ・金融・公務の職場実態と、民間の営業職の実状が報告されました。  
金融からは昨年が続いて三菱東京UFJ銀行OBの浦野さんが「金融機関では、取扱商品が増えて、会社に入ってからも勉強勉強に追いまわられている。職場で心の病に陥る労働者も増えている」「最近、地元帰志向の学生も増えて、全国転動のない地域金融機関への就職希望も多い。初任給の高い低いだけを見ないで、長く働き続けられるかどうかよく考えて欲しい」と説明しました。